

ぽこ・あ・ぽこ

Poco a Poco イタリア語で「少しずつ」という意味です。

発行者
社会福祉法人 神戸婦人同協会 子供の家
〒661-0974 兵庫県尼崎市若王寺3-16-3
tel 06-6491-8853 fax 06-6498-3414
支援センター (tel, fax) 06 6491 1811
E-mail (子供の家) info@kodomonno-ie.org
(支援センター) pandy@kodomonno-ie.org
URL http://www.kodomonno-ie.org

第35号 平成15年1月15日 発行

新年あけましておめでとうです

新年あけましておめでとうござ
います。
今年も子供の家の子どもと職員
をよろしくお願い致します。
今年のお正月は、例年になく施
設に残る子どもたちが多く、最近
の入所してくる背景を象徴したか
のような状況でした。
職員の勤務体制も急遽出勤を依
頼するほどの状況でした。



餅つき大会

去る十一月十四日に毎年恒例の竹
の会さんが来訪しての餅つき大会
がありました。
今年はおもち米が高騰しているな
かで例年どおりしていただき感謝
しております。

新しく入所した子どもたちは餅
つきを見るのが初めての子どもた
ちもいたりして興味深々のように
した。
実際に杵を持ち餅をつかせても
らったり、粉を顔に付けて遊んだ
りとても賑やかな日となりました。



クリスマスケーキの寄贈が

ありました

十二月二十二日に今年もクリスマ
スに合わせて、学校法人育成学園
育成調理師専門学校の方から
ら、クリスマスケーキとチョコレ
ートの寄贈がありました。写真は
園長室にて子ども代表で中学生の

女の子がケーキを受け取る様子で
す。ケーキはこの日の夕食に出さ
れました。育成調理師専門学校の
皆様、本当にありがとうございました。



子供の家クリスマス会

去る十二月二十三日にクリスマ
ス会がありました。
今年、尼崎市長をも来訪して
いただきご挨拶をいただきました。
今年、さまざまなボランティア
の方々が参加してくださり盛大
なものとなりました。
プログラム内容は盛りだくさん
で、まず尼崎すし商組合さんか
らのお菓子、尼崎あきんど倶楽部さ
んからのバールの贈呈がありま
した。
また毎年来て頂いてる里見靖子
さん・牧師さんのお話、ハンドペ
ル演奏に始まり、恒例の田中あき
子さんによる手品ショー、子ども
達や職員による様々な楽しい出し

物、尼崎レオクラブさんの幕間企画、そして初の試みで登録ボランティアの皆さんによる出し物（ハインドベル演奏）がありました。特に幼児さんの出し物「ダンス赤鼻のトナカイ」などの出し物はかわいい！といった歓声がたくさんあがりました。

十八時から食堂にて、三浦園長による挨拶を合図に、立食パーティーが開かれ厨房職員によるおいしい料理を頂きました。お忙しい中クリスマス会に来ていただいた皆様、本当にありがとうございました。そして出し物練習や準備に頑張った子ども達、お疲れ様でした。



韓国との国際交流があります

来る二月二日から十日までの期間、韓国のソウル神学大学の学生たちが今年もやってきます。これは、近隣にある特別養護老人ホームが窓口となり、定期的

受け入れをしているもので子供の家でも約十二年ほど前から受け入れをしています。

学生達は約二週間の日程で滞在となり後半を近隣の各福祉施設に分かれて実習という形となります。

施設内でのケアの体験に加え他機関の見学等を予定しております。

この実習がきっかけで日本に留学している学生もあり、成果が出てきております。

言葉の壁はありますが、同じ人として接していけば大丈夫だと思っております。



サッカーチーム

「ブルーフェニックス」始動

今年もCGCサッカー大会の出場のため、活動を本格的に開始しました。去る一月十日には尼崎学園との練習試合もしました。数年前の過去の栄光から久しく

遠ざかりいつのまにか目標は予選突破となってしまっています。

今年は、昨年の大会終了後から定期的に練習を重ね、地域のサッカーチームに所属する子どもたちもいるため、昨年よりは良い試合ができるのではないのでしょうか。

ともかく、数年かけて子供の家のサッカーチームは強いというイメージを持っていただけたらと思います。

新任職員紹介

喜村伸美 指導員

子供の家で働き始めて二ヶ月がたちます。

最初は、子どもたちと話すこともできず一緒に遊ぶこともままならない状態でした。

しかし、接していくにつれて少しずつではありますが、子どもたちの輪の中に入っていきけるようになってきました。子どもたちの成長と共に私も成長できたらと思っています。



編集後記

今年は、年末年始に外泊に出る子どもたちが例年より少なく、ここ十年みてもこのような現象はなかったのですが、最近の入所理由に多い被虐待児の増加がこのような形で表出しているのだと思います。

また、正月にショートステイの依頼があつたりして、この日本での子育て（特に学童より上の子どもたち）をしていくためのサポートが少ないことを実感しました。

今年は、当施設に附設されている児童家庭支援センターとの協力を強化して、これらのニーズに少しでも答えられるよう努力していきたいと考えております。

次世代育成支援対策推進法が成立し、その目的である「子育てしやすい環境づくり」の一翼を担えればと思っています。

